

みどりの風



医療法人 みどり会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2071
URL <http://midori.jpn.org/> E-mail midorii@io.ocn.ne.jp

社会福祉法人 松樹会 枚方市交北2丁目10番1号 ☎072-898-2197
URL <http://www.syujukai.org/> E-mail ikoinosato@syujukai.org

編集責任者：理事長 中村 猛
編 集：季刊誌編集委員会

第62号御挨拶

理事長 中村 猛



皆さん、こんにちは。
さしもの、猛暑も過ぎ去りましたが、新型コロナウイルスの感染が続き、寒くなればインフルエンザの流行も考えられ、ダブルのウイルス対応が必要になってまいりました。

振り返れば非常事態宣言から半年になり、3密をさけ、Social distanceをおく社会情勢の中、随分と我々の生活が変わってまいりました。人々の移動・集まりの抑制から過熱なエネルギーの消費が消えてまいりました。With Coronaでこれからの社会はどのように変わるか先が読めません。

先日、私共の長尾地域でまちづくり推進協議会が設立され、私共の病院を含むエリアは医療福祉ゾーンに指定され住み良い平和な町づくりの一端を担うことになりました。より良い町づくりは何も近代的なビル街や高速道路網をめぐらすのが目標ではありません。長尾の家並みと

銭湯の庶民的な暮らしがあってよいし、子供達や若者の触れ合うグローバルの未来を謳う町があってもよいし、又、日本の音楽、絵画、芸能や世界の文化スポーツが花開く場を設けるのも素晴らしい町づくりです。

先日は道頓堀の町づくりでちっぴけな並木座の劇場を訪れ、約400年の歴史を誇る世界最古の劇場街の取り組みを勉強させていただきました。

山里のひとときわ高くそびえる大木には色々寄生する動物が共生し自然との調和にとれた暮らしをしています。

私たちの身体も実は数十のウィルスが共生しているとの事、又腸内細菌との共存が私達の健康を支えていることを考えると、相手との戦いは極力避けなければなりません。

これからの世の中、コロナ禍の中で自然と社会はこの“共生”という命題が大きく浮かびあって、これからの世の変化にかかわっている事を感じない訳にはいきません。



「医療法人みどり会・社会福祉法人松樹会」令和2年度永年勤続者表彰並びに令和元年度業績団体グループ表彰

令和2年度 永年勤続者表彰

勤続30年：前田 美之（1名）

勤続25年：岡田 敦子（1名）

勤続20年：曾我部 千夏子・村佐 揚子・高岡 弥生・原石 幸男・荒川 登茂子・宮本 知・地鼻 真奈美・坊 晃子・山内 庸照（9名）

勤続15年：河内 仁美・永田 淳・高杉 孝博・山崎 豪・尊田 幸一・平野 明子・中村 美紀・澤園 聡子・小野 理恵・大塩 剛司・渡辺 理恵（11名）

勤続10年：山崎 優子・平野 菜美子・北峯 貴子・小川 真美・下村 有美・沢 佳子・岩崎 亜紀・関東 恵美・吉田 竜大・長嶋 美貴・入江 敬子・岡澤 早由利・平井 美苗・飯田 康博・島 師子・野崎 アキ子・小西 洋子・勝田 公平・村上 和宏・鶴 貴宏・林 征一郎・上坂 聖美・佐藤 仁美（23名）

合計45名の方に表彰状及び記念品贈呈



理事長賞：グループホームたんぼぼ田口



みどり会賞：中村病院・医事課



特別賞：なごみの里・サテライト・リハビリ部

令和元年度 業績団体グループ表彰

理事長賞：グループホームたんぼぼ田口 「レクリエーションの取り組みについて」

みどり会賞：中村病院・医事課 「ヤマザキYショップ・営業時間の支援について」

特別賞：なごみの里・サテライト・リハビリ部 「老健リハビリってええやん」

3グループの方に表彰状及び金一封授与

マスクの重要性

院長 高橋 輝



新型コロナウイルス感染症への対応について、当院でも来院者にマスク着用をお願いし、検温を実施して発熱患者の待合を別の場所にするなどの対策を実施しています。

新型コロナウイルスは飛沫感染ですので、口からウイルスが出てきます。このためマスクの着用が最も重要です。

仮に感染している患者さんがいたとしても、マスクにてウイルスが口から外に出なければ、他人に感染を起こすことはないはずで、口以外では手を介しての感染は可能性があります。患者さんが口や鼻を触った手にウイルスが付着し、その手で触った場所にウイルスが残り、同じ場所を触った別の人の手にウイルスが付着し、さらにその手で顔を触って口や

鼻からウイルスが侵入する、といった感染経路です。

この感染様式を防ぐために手の消毒が勧められている訳ですが、患者さんの口から感染する人の口にたどり着くまで、上記のように長々しい説明を要し、いくつかの偶然が重なる必要があります。

こう考えると口からの感染の方が生じやすいと言え、やはりマスクが最も重要ということになります。院内でのマスク着用を改めてお願い致します。



脳神経外科医赴任のご挨拶

脳神経外科 部長 永野 雄三



はじめまして、永野 雄三と申します。

21世紀中は市立ひらかた病院脳神経外科に勤務しておりましたが、2020年8月より中村病院脳神経外科に着任させていただきました。

コロナ禍の世界では、医療を含むフロントライン・ワーカーの存在がにわかに意識されるようになりました。（ところでEUにおいては国境をまたぐ労働者、フロンティア・ワーカーが注目されています。わたくしは県境を越えて通勤しております。）社会を守るとは、

そのひとにとって何を意味するのか、が問われる時代となりました。

地域最大規模を誇る回復期リハビリテーション病棟で、脳血管障害の患者さんを中心に診療をさせていただくことが当面の目標です。チーム医療の一員として、機能改善とともに再発予防、合併症予防に尽力したいと考えます。

前任地では急性期医療に携わり、近隣医療機関の多くの皆様に大変お世話になりました。今後は急性期から維持期への架橋となり、別の形で地域医療に貢献できるよう努力して参る所存です。宜しくお願い申し上げます。

中村病院安全管理室の取り組み

安全管理室 室長 石川 公男



安全管理室として、暴言・暴力、クレーム等を担当しています石川 公男です。よろしく申し上げます。

私は、元警察官で退職後7年間医療機関の業務に携わってきました。この度、良き縁に恵まれ本年4月に入職させていただきました。

私の中村病院に対する思い出は、開院時の中村外科です。その頃、世間は交通戦争と言われ事故が多発する時代でした。当然、中村外科にも多くの負傷者が搬送されました。

当時は受入れ拒否の病院も少なからずありましたが、中村外科は昼夜間帯に関係なく何時も快く受入れて頂き、また、警察官が行う患者の症状聴き取りにも嫌な顔をせず丁寧に答えて頂きました。

なかでも記憶に残る出来事は、昭和55年に発生した京阪電車置石脱線事故です。私もパトカーで負傷者の病院搬送や、負傷者の把握・連絡等に奔走しました。この緊急事態時に際しても中村外科は積極的に負傷者の受入れを行い、多くの負傷者

の治療を行ったと聞いていますので、院内は非常に緊迫した状況だったのではないかと思います。

他にも深夜帯に交通事故で車に轢過された瀕死者を快く受け入れ診察して頂いた記憶もあります。今も、若き当時の理事長の医師としての凛々しい姿が鮮明に残っています。地域密着から地域の中核病院へと大きく躍進した中村病院に入職させて頂いたことに大変感謝し感激しております。この気持ちを忘れず、安全管理担当者として職員の皆さんが安全・安心して勤務できる職場を提供していきたいと思っています。

また、中村病院の更なる発展に少しでも貢献できるよう頑張る所存ですのでよろしくお願い申し上げます。



コロナ禍のなかで

なごみの里 通所リハビリ 課長 林 千妃呂

今年に入り新型コロナウイルス感染症が全国で猛威を振るう中、なごみの里でも出来る限りの対策を立て、職員一丸となって感染予防に努めて参りました。緊急事態宣言の解除後も第2波の襲来があり、今もまだまだ気の抜けない日々を過ごしています。

通所リハビリセンターにおいても、感染予防を徹底し皆様へのサービスを継続してきましたが、流行当初は感染への不安からお休みされる方も多く、職員もまた大きな不安を抱えながら日々奮闘を続けています。

昨年の今頃は当たり前のように行っていたご利用者とのスキップやレクリエーション・行事等も、今はマスク越しであっ

たり、活動自体を中止しているものもあります。なごみの里通所リハビリセンターは単にリハビリを提供するための施設ではなく、ご利用者の日常に寄り添い、共に歩いていく場所でありたいと思っています。日常生活の中のちょっとした楽しみや、人と人との関わりの中で芽生える感情や行動等、ほんの小さな変化であっても、日々継続することで大きな力になると信じています。

新しい日常を取り入れながらも、「コロナだから出来ない」ではなく、「コロナだけ出来ることを探していこう」という気持ちを忘れずに、今後も精進していきたいと思っております。

コロナに負けない食事

なごみの里 栄養課(管理栄養士) 課長代理 小野 理恵

新型コロナウイルスの影響を受けて、私達は新しい生活様式への行動変容が求められています。食生活もその中の一つです。自粛期間中は、それまでの食事スタイルが改善された方もいた一方で、活動量の低下やストレスによる過食により、肥満人口が急激に増えたことも問題になっています。

更に肥満で感染した場合の重症化リスクが高いことも明らかにされています。低栄養だけでなく過剰栄養でも免疫能は低下するので、栄養バランスのとれた健康的な食事が重要です。

バランスをとるにはまとめ食いは避け、一日三度を規則正しく、朝食に不足しがちなたんぱく質を補給して日中のやる気を維持し、夜の良眠につなげる。体重は「維持する」。外出が難しい場合に合成できないビタミンDを、鮭などの魚や魚卵、干し椎茸を食事に取り入れて補うことができます。

ゴールの見えない状況ではありますが、健康を保つためにできることを続けましょう。

訪問介護のコロナ対応

訪問介護ステーションみどり 所長 中井 正人

私たち訪問介護のヘルパーは、自粛要請期間中も変わらずにご利用者宅を訪ねていましたが、正直に言って“ヒヤヒヤもの”の数か月でした。常々“清潔であること”の大切さを意識し、衛生面にはことさら気を付けていましたが、そのような知識があるだけに、未知の感染症に対する恐怖感は一倍あったように思います。

そのため、ご利用者の不安を煽ることがないように言動には気をつけつつ、感染リスクを下げるため衛生部材の使用、手順の統一、消毒作業の徹底……、通常よりもやるが増えて、

精神的にも肉体的にも疲弊する毎日でした。

今年はずっと感染予防がつきまとい、何もかも自粛ムードです。そのため子供も大人も普段と異なる日常を過ごしています。今後様々な活動が元に戻る中でも、すべてがコロナ前のようにはないと思われれます。

コロナは人類にとって大きな試練ですが、今までにない価値観や新しい発想で、よりよく変化できるチャンスだと前向きにとらえていく必要があるのかなと考えています。

在宅支援

ウィズコロナの包括業務

枚方市地域包括支援センターみどり 所長 伊内 康宏

包括では日々高齢者の総合相談を受け付けておりますが、ご自宅に訪問し直接対面で面接を行うのが基本です。まず対象者や家族と顔を合わせて、信頼関係を形成することを大切にしております。

ですが、ウィズコロナの今、三密を避けつつ交流していく工夫が必要となっています。

今、取り組んでいるさまざまな包括の事業(事業所連絡会・多職種連携研究会等)は、ほとんどZoomなどのオンラインで

の実施となっており、私ども包括業務は大きく変化しました。

オンラインのメリットは何といても、移動時間の短縮による業務効率化とスピーディーな情報共有です。一方でデメリットも種々指摘があり、特にセキュリティを保護する観点から注意点をまとめ、参加事業所等には遵守するように努めて頂いております。新しい生活様式の中でこのメリットを活かし、少しでも取り組みを前に進めてまいります。今後ともよろしくお願いたします。



つくしんぼ長尾施設長就任ご挨拶

つくしんぼ長尾 施設長 竹之内 真一



この度、令和2年9月16日付けでつくしんぼ長尾施設長に就任いたしました竹之内でございます。

当法人には平成17年、たんぼぼ藤阪開設時から勤め、その後いこいの里、再度たんぼぼ藤阪を経て今回の異動となりました。

施設長の職に就くのは初めてのため、いろいろと至らないところもございますが、今までの経験を活かして頑張りたいと思っております。

何卒変わらぬご支援、ご協力の程、お願い申し上げます。



たんぼぼ藤阪管理者就任ご挨拶

たんぼぼ藤阪 管理者 梅村 匠



この度、令和2年9月16日付けでたんぼぼ藤阪の管理者に就任させていただきました梅村 匠です。これまでは介護士、計画作成担当者として入居者様と接して参りました。これからは今までの経験を活かしながら、入居者様・ご家族様が喜んで頂ける、施設運営・サービスに職員

一丸となって取り組んでまいります。

両法人では3つのグループホームがあり、明年4月にはグループホームたんぼぼ長尾が18床に増床、移転します。それぞれのグループホームが、特性を活かしながら、地域に根ざした施設としての役割を果たしていきたいと思っております。

今後ご指導・ご鞭撻頂きますよう、宜しくお願い致します。



コロナを吹き飛ばせ「風に吹かれるアンブレラ」

いこいの里 副管理者 山田 英津子

毎年いこいの里では、近隣住民のみなさんにも協力して頂き、盛大な夏祭りを開催していましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大によりイベントを自粛する事にいたしました。そこで、夏祭りや花火大会などを中止するかわりに、中庭の空に色とりどりの傘を飾る「アンブレラスカイ」を企画しました。

「アンブレラスカイ」とは、2012年7月にポルトガルの小さな町アゲダで開催された芸術祭が始まりです。商店街や街中に空高く傘を飾る傘アート。そこに私たちは目を付け、中庭に色とりどりの傘を飾って、外出できず施設の中で過ごしてられる利用者様に日常から少し離れた空間を作ることにしました。

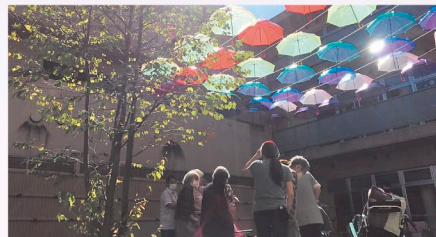
作り方はネットで検索をし、まずは職員に呼びかけピンニール

傘を寄付してもらう事から始めました。集まった傘の石突き部にドリルで穴をあけ、紐を通して、あれでもない、これでもないと言いながら、何とか出来あがりしました。

中庭のかつらの木や芝生には色とりどりの傘が日光に反射して鮮やかに映り、とても幻想的でした。傘を飾ったおかげで直射日光を防ぎ暑さも軽減されたので、利用者様と中庭に出て、幻想的な世界の中で風や緑を感じる事ができました。

雨の日には傘にあたる雨の音が「ボン、ポポボン」とどこか花火の音の様にも聞こえ、目や耳、鼻で夏を感じるイベントができました。

自粛時期がまだまだ続くと思いますが、これからも利用者様と一緒に楽しめるイベントを考えていきたいと思っております。



各施設連絡先

社会福祉法人 松樹会

- 特別養護老人ホーム いこいの里
- デイサービスセンター いこいの里 072-898-2197
- サテライト いこいの里 072-849-2210
- 特別養護老人ホーム いこいの里藤阪 072-868-2192
- ケアハウス つくしんぼ長尾
- デイサービスセンター 長尾 072-868-2190
- ケアハウス つくしんぼ藤阪 072-868-2191
- グループホーム たんぼぼ藤阪 072-868-2197
- グループホーム たんぼぼ田口 072-898-2193
- 小規模多機能ホーム ふじ 072-868-2193
- 居宅介護支援センター つくしんぼ 072-898-2196
- 障害福祉サービス ミルキーウェイ 072-867-5690

医療法人 みどり会

- 中村病院 072-868-2071
- 中村記念クリニック 072-868-2070
- 介護老人保健施設 なごみの里 072-868-2072
- サテライト なごみの里
- デイサービス 長尾の里 072-818-2071
- 有料老人ホーム みどりの館 072-868-2727
- グループホーム たんぼぼ長尾 072-868-2195
- ケアプランセンター なごみ 072-818-7533
- 訪問介護ステーション みどり 072-868-4392
- 地域包括支援センター みどり 072-845-2002
- 研修所 みどりの樹 0264-44-2550

ルーク山田眼科 072-868-0880

編集後記

“With コロナ” 昨今よく耳にするようになり、どの様にコロナと共存していくのか、自身の行動により罹患し勤務先に迷惑をかけることはできないし、と考えるとおのずから行動範囲が限定され、家にいることが日常となり、我が家ではこの“コロナの秋”を思い切って長期間眠っている物品・書籍・衣類等の断捨離期間と称し整理整頓し、身の周りから少しでも衛生的な環境保持に努めようと行動に移しているところです。

みどりの風第62号(秋号)の発刊にあたって今号もやはり“コロナ特集”紙面になりましたが、職員の実なるコロナとの奮戦記を御覧いただければ幸いです。今後とも地域に根ざした医療福祉機関として頑張っておりますので御支援、御指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

みどりの風編集委員会
連絡先 ☎072-868-2071 法人本部 松田